●第二十一回 ブルーメール賞選考座談会

《美術部門》

激戦の美術部門の中で 坪田政彦、木津文哉に

——まず、印象に残った方々の名前を挙げていただきましょう。

A **池田真規子**は廃材の上にアルミをくしゃくしゃにしたのを覆いアクリルをのせておもしろい効果を出していたのが印象に残りました。それから、**三村逸子**、立体の**井沢以佐子**。去年も名前が出ている、木彫の**梶滋**。暖めた作品で、岡山でも評判が良かった。兵庫の美術家にははずれているが、なかなかがんばっているのが**山口さとこ**。**市川悦也**は第9回ダンテ国際彫刻展で金メダルを受賞しています。ローズガーデンコンテストでも立体で神戸っ子賞を受賞した**嘉納千紗子**も挙げておきましょう。

B **曽我孝司**は去年非常に迫力のある仕事をして良かったですね。**三村逸子**。絵画の**黒瀬剋**もなかなか良かった。木彫の**松田一戯**。**山口さとこ**もいいと思います。**重松あゆみ**は去年目立った仕事をしていないが、コンスタントな仕事をしていると思います。

C 順番に挙げると、絵画の**門脇正弘**、**木津文哉**、**井上和則**、**春澤振一郎**、**松井憲作**、**松原政祐**、ものすごく良くなってきているのが**藤原護**。木彫の**松田一戯**。絵画の**岩見健二**、**白川治**。彫刻の**鹿間厚次郎**。金工の**高橋正訓**。

D 沈滞気味だった日本画ですが若手の世代がどんどん出てきています。青垣二〇〇一年日本画展で大賞を取った**城野奈英子**、同じく入選の**井上美紀**、**山崎ゆう子**。他の分野では**河崎晃一**。トアロード画廊でよく個展をする**金令恵**。村松画廊で個展をした**李智子**。**夏目陽子**の版画はおもしろかったですね。新しい紙の仕事をする**藤原志保**。彫刻の**塚脇淳**、**牛尾啓三**。**石田えいじ**は**松田一戯**と一緒に仕事をしているのですがおもしろい仕事をしています。**井沢以佐子**はバイタリティーがありますね。さっき言った**曽我**、**牛尾**、**市川**、**塚脇**らが環境造形Qの次の世代で今引っぱっていますね。

A **塚脇**はぐんぐん良くなっています。

●選考委員●

赤根 和生さん
<美術評論家>

増田 洋さん
<兵庫県立近代美術館次長>

D　田中守は篠山でアトリエを作りがんばっています。ちょっとはなれるが椋木英三。日本陶芸展の実用部門で最後まで一席を争いましたね。立杭で田部美術館大賞を取った西端正、日本伝統工芸展の高松宮記念賞を取った市野元和など、若手のいい仕事をする人が増えています。柏原高校の美術部のOBでグループ展をやり始めました。吉仲正直、西田藤夫、高橋正訓も挙げておいて下さい。松本薫はまた今までとは違った、いい方向へどんどん展開しています。

B　脇道へそれるがアトリエ西宮がよくやっています。

――そろそろ絞り込みましょう。

D　各分野から急速に力をつけた彫刻の牛尾、絵画の木津、特に日本画を推薦したいのだがフィンランドで廃駅の情景をつかまえて帰ってきた城野。

C　絵画の藤原、木津。松井は和紙に薄い調子で描いておりモダンな軸の様でリズムがありました。

B　彫刻の曽我。絵画の坪田。工芸の吉川周而かな。

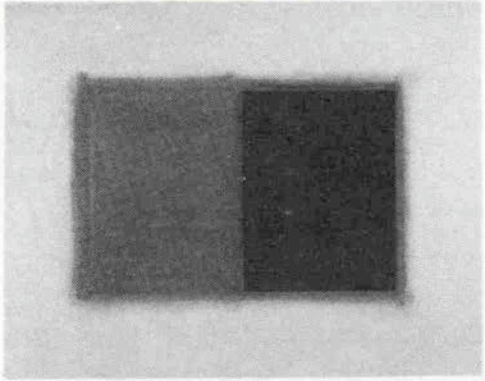
A　立体の山口さと子。井沢以佐子。平面では春澤振一郎。

D　坪田はコンスタントにいい仕事をしています。坪田は前衛的、春澤は地味ですが二人の追求していく姿勢は似ていますね。

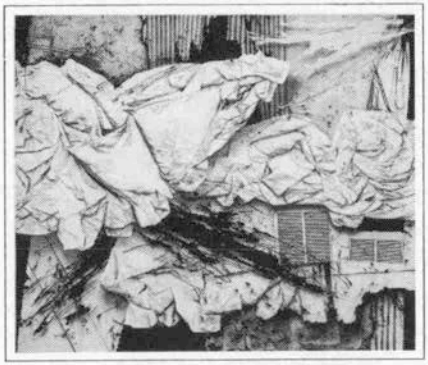
A　今年は平面の中からという事になると木津、松井、坪田、春澤ですか。美術部門は大へん候補者も多く、決めるのに苦労します。

B　今年に限り、木津、坪田の二人受賞にしては。激戦だという事は大へん喜ばしい事ですね。

〈文中敬称略〉



◀坪田政彦さん
PENETRATION'89・OIL 130・3×162・1 cm



◀木津文哉さん
流布 194×162 cm

乾　由明さん
<美術評論家>

伊藤　誠さん
<姫路市立美術館館長>

■受賞者メモリアル

1.	彫刻／山口　牧生	11.	平面／木下佳通代
2.	造形／丸本　耕	12.	造形／宮崎　豊治
3.	洋画／小西　保文	13.	平面／藤原　志保
4.	版画／藤原　向意	14.	建築／武田　則明
5.	平面／斎藤　智	16.	平面／石川　晴久
6.	洋画／郷　相和	16.	平面／松原　政祐
7.	洋画／山本　文彦	17.	造形／植松　奎二
8.	造形／堀尾　貞治	18.	彫刻／松本　薫
9.	造形／榎　忠	19.	造形／杉山　知子
10.	版画／松谷　武判	20.	彫刻／田中　昇

●第二十一回 ブルーメール賞選考座談会

《文学部門》

豊かな詩的感性に含羞を帯びた詩才 渡辺信雄に

★詩人は年輪と共に充実する

A 年輩の方の詩集が最近多く、いい作品がありますね。

B ブルーメール賞の受賞者も、ある時期から年齢があがってきています。僕らの若いころは、二十代で詩集を出したものですが。

C 詩そのものと詩人の年齢とは直接には関係しませんが、実績もあってすでに評価されていらっしゃる人も多く、新人賞の枠からは少しはみ出てしまいますでしょう。ですから伊勢田さんの『熊野詩集』も、已むなく外さざるを得ない…(笑)。ブルーメール賞の過去の受賞者で季村敏夫『都市のさざなみ』、時里二郎『星痕を巡る七つの異文』、たかとう匡子『対話』が、優れた詩集を上梓したのは頼もしいですね。

A 私が読んだ中では**江口節**の『**人になるイルカ**』と**渡辺信雄**の『**水の中のピアノ**』が印象に残っています。**山本美代子**『**遠野**』も優れた詩集です。すでに多くの仕事をなさってきている人なのですが、賞を与えたい気がします。

C **矢野彰一**の『**風のフロンティア**』も秀逸です。不思議な感触を見事に詩の領域に引き込んでいます。姫路在住の**衣笠潔子**の『**怪物くん**』は、人見知り激しい〈私〉の他者との遭遇譚とでも言える作品になっています。『**おさらい**』を書いた**松原千智**は今までにない初々しい詩人ですね。

B **杉本深由起**の詩集『**キュッキュッ クックックッ**』にも、新鮮さを感じました。**吉田草平**が詩集『**地擦り**』を出しましたね。前回の『**天地返し**』よりも充実しています。**松本衆司**も魅力的な存在です。昨年暮れに出した『**poem street**』は、仕掛けのある詩集になっていますね。

C さあ、このあたりで絞っていくことにしましょうか。私は矢野をまず推したい。季村、時里につ

●選考委員●

君本 昌久さん
<詩 人>

伊勢田 史郎さん
<詩 人>

安水 稔和さん
<詩 人>

づく大型新人です。

A　江口の詩集は、単なるキッチン・ポエムを越えたものです。レトリックに工夫がみられますし、詩人としての感性も備わっていますね。

C　杉本は資質のある詩人です。

Piano dans l'eau

水の中のピアノ

水の中の校庭を
仙人がはしっていく

男か女か定かではない人の
髪の毛と水草の区別がつかない

こどもたちはどこへいったのか
雨の匂いのするこどもたちは

水の中からピアノの音色が
聞こえてくる

ピュランンぴゅらんん
一匹二匹……
鍵盤を叩く魚
青空からダイビングしてきた人の
死体がピラン靡爛
葱のようにふやけて白い
足が
音符を叩いている
ちぎれていくかわいい指

水の中で
ピアノが鳴らされている

松原も杉本と同様で、初々しさの点では申し分ないでしょう。江口の詩集は、どちらかと言えば辛口で、そこが魅力なのですね。

B　女性の詩人には、新鮮さが確かに感じられますね。それを認めたうえで、渡辺と吉田のふたりの詩人に絞ってみるとどうでしょうか…。

A・B　同感ですね。

★含羞の詩人、渡辺信雄に決定

A　渡辺の場合、前作のほうがよかった感じがしますね。学生時代に受けた心の傷が濃厚に出ていたようです。もちろん、今度の詩集も質的には劣ってはいません。やや内向した面がありますね。感性は鋭く、詩人たるに必要な含羞もたずさえています。将来性のある人です。

C　彼の第一詩集「冬の日の私信」には、まさしく新人らしさがあって、私はこちらも気に入っています。熟しているのを感じますね、今回の詩集を読むと。

A　心のひだが細かくなってきてますね。深化しています。

C　吉田は五冊目の詩集になりますか。都市生活者の都市の言葉の溢れるなかへ提出された近ごろ希な骨太の詩集です。これまでの詩集を統合して、さらに飛躍してほしい気がします。

A　言葉のうえでの畑仕事をさらにおこなってもらうと、彼の詩は凝縮度を増すでしょうね。将来への可能性は、大きなものが感じられますからね。たのしみです。

B　言葉に対する信頼が、この詩人には確かにありますね。

A　他者へ訴える詩を多く書いてますね。自己への批評が増えていけば…。

B　詩の材料がたくさん彼にはあるのでしょう、これからもどんどん書いていける詩人ですよ。

C　渡辺と吉田、甲乙つけがたいところですが、3人の話を総合してみると、人間の現在を巨視的にも微視的にも考えさせる『水の中のピアノ』が妥当な線になるでしょう。

＜文中敬称略＞

■受賞者メモリアル

1.	詩	中村　隆	11.	詩	季村　敏夫
2.	小説	郷　承博	12.	小説	福岡　勝利
3.	俳句	小泉八重子	13.	詩	時里　二郎
4.	小説	福本　早夫	14.	評論	松尾美恵子
5.	詩	三宅　武	15.	詩	武田　信明
6.	小説	秋吉　好	16.	小説	山西　史子
7.	詩	江頭　越子	17.	詩	たかとう匡子
8.	小説	桜井　利枝	18.	小説	森　栄枝
9.	詩	梅村　光明	19.	詩	田中　紀子
10.	小説	吉保　知佐	20.	小説	夏巳ゆらこ

着る宝石
オフ・シーズンのケア。

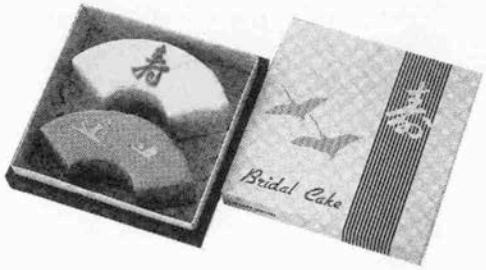
豪華な毛皮もそろそろオフに入ります。ところがこれがちょっと気難し屋さん。私たちの髪の毛と同じように脂肪分があり、1回の外出でもかなりのほこりや湿気を吸い込んでいます。毛並のツヤや柔らかさをキープするには、いたわるようなアフターファッションが必要です。

Since 1933
After Fashion ニシジマ
本社／神戸市灘区記田町1丁目2-16

■大阪支社/06-853-1332 ■つかしん/06-420-3754 ■ロープ・ニシジマ/078-332-2440
■山手店/078-221-2440 ■宝塚/0797-72-0810 ■リフォーム・フルフル/078-221-9110

紅白バウム

ふたりで語りかけるように
あたたかい祝福の言葉の
ひとつひとつに
心から感謝したい……
そんなお二人の心を
この銘菓に託して。



末広がりの扇形のバウムクーヘンにおめでたい紅白のチョコレートで飾りました。

1200円

北欧の銘菓
ユーハイム・コンフェクト

KEI—POKE

経済

ポケットジャーナル

KEI—POKE

★第5回大阪経済人懇談会に経済界の首脳が集まる

2月17日、新神戸オリエンタルホテルに於て、第5回大阪経済人懇談会が開かれました。神戸市側からは笹山市長が「神戸をさらに充実した街にするために、神戸、大阪の経済人の協力を希望します」と挨拶。続いて、牧冬彦神戸商工会議所会頭、亀井正夫住友電気相談役が、大阪、神戸間のベイエリアの結束を強調した。なごやかなうちに、経済人の交流が活発に行なわれた。

神戸商工会議所会頭の牧冬彦氏

★「三都祭り」構想を、神戸の同友会が提案

神戸経済同友会は「神戸経済の未来像に関する提言」を発表した。この神戸の長期ビジョンに関する提言の中で、京都の祇園祭と大阪の天神祭りの間に、神戸において七月二十日の「海の記念日」を中心に「海」をテーマとする祭の開催が提案されている。

この祭が実現すれば、京都の「町衆」の祭りと大阪の「川」の祭りに狭まってコントラストを形成するとともに、三都市の一体感を醸成するのに役立つことが期待できる。

この提案は、二月十四日の京都の財界セミナーでも紹介され、実現へ向けての動きが始まっている。

兵庫銀行相談役の谷口昇氏

★神戸商工会議所専務理事に神鋼理事の三木氏

二月十八日、神戸商工会議所は神戸製鋼所理事の三木徹也氏を石原拓二専務理事の後任に内定した。今月二十五日の総会で正式に就任する。また三木氏は、二十七日の神戸レジャーワールドの臨時株主総会で、特別顧問にも就く予定である。

三木徹也氏

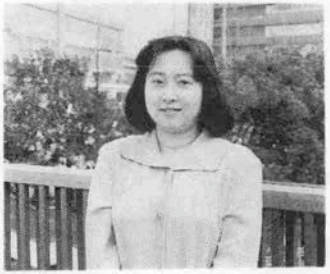
★今年9月21日、甲子園都ホテルがオープン！

清酒白鹿の醸造元辰馬本家酒造㈱は、「生活創造企業」への一つのシンボルとして、京都の名門、都ホテルに甲子園都ホテルの運営を委託、今秋、阪神電鉄甲子園駅前で開業の予定である。地上15階、地下1階の同ホテルは、阪神間の中核都市西宮市で初めてのシティホテルとして、話題を呼ぶことになるだろう。

甲子園都ホテルの完成予想図

★KOBEオフィスレディ★ 名和由起子さん(27)

〈そごう神戸店勤務〉



「銀(しろがね)も金(くがね)も玉も何せむに、まされる宝子に如(し)かめやも」——神戸そごうに勤務されていらっしゃる名和由起子さんは、万葉の歌人山上憶良のこの和歌が大好き。スキーもテニスも問題にならないほど、子供が好きな名和さん。彼女は、神戸そごうで、ベビー服や子供服を中心に、お客様に夢を与えるコンサルタントです。知的な優しさをたたえた笑顔が、彼女のメジャーな魅力でしょう。

おうし座のA型　芦屋市在住

〝恋をしよう〟〝街をつくろう〟夢と心を育んで――神戸アーバンリゾートフェア

座談会出席者（順不同・敬称略）

妹尾美智子〈神戸市婦人団体協議会専務理事〉
下村　繁弘〈神戸アーバンリゾートフェア事務局長〉
嶋田　勝次〈神戸大学工学部教授〉
長澤　　昭〈株式会社大丸専務取締役〉
新谷　琇紀〈彫刻家〉

司会　今回は平成5年4月から9月に催されます、「アーバンリゾートフェア神戸'93」についてのお話を頂戴したいと考えております。

妹尾　美智子さん

★アーバンリゾートフェアは、街全体が会場だ

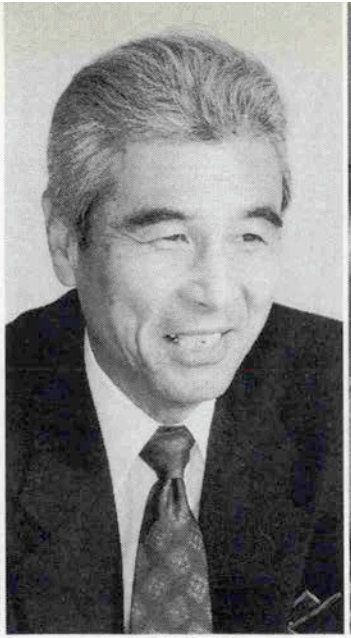
下村　昨年、十月までのアーバンリゾートフェア'93懇話会でのご意見などを踏まえて、ひとことでアーバンリゾートフェアをご説明申し上げますと、ひとつの新しい都市の魅力の創造のための仕組み、あるいは試みです。

これまでのフェアというものは、「花の博覧会」や「ポートピア博覧会」などを見ましても、一定の会場を設けて、その中でフェアを行なったというものです。今回のフェアでは、むしろそういう「囲い込み型」ではなしに、これまでの街づくりを踏まえた上で、街全体を会場に見たてて、新しい街、市民の生活の在り様、快適な暮らしを考えていこうというものです。

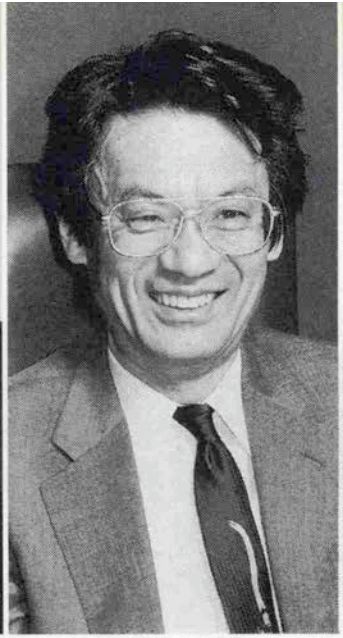
これまで、日本は経済優先という形で発展してきたのですが、これからは、労働時間短縮の問題ひとつをとってみましても、ひとりひとりの生活が変わってくると思うんです。プライベートの時間が増えてきたりしますと、その時間の充実が大切になってくる。快適な生活を育てるお手伝いをどうしていくのか、精神的な充足をみなさんと一緒に考えていくということですね。

長澤　アーバンリゾートフェアのお話は、市長からも、「旧居留地が中心になるんだよ」ということを聞いておりまして、なにか考えねばならないと思っておりますが、

新谷　琇紀さん



長澤　昭さん



嶋田　勝次さん

下村　繁弘さん

いわゆるパビリオンとすれば、古い近代洋風建築という絶好の素材が残っているわけで、これを利用してなにかフェアに相応しい催しを旧居留地協議会を中心に考えていきたいと思っています。でも、いざやろうとなるとなかなか難しいですね。アイデアはいろいろあるのですが、少し良いものをやろうとするとかなりのお金がかかりますので、それを何処から捻出するかが難しいところです。アーバンリゾートフェアという発想は素晴らしいもので、うまく成功すれば、二十一世紀の街づくりに良いものを残せそうです。しかし逆に中途半端なものをすると全国の笑い物になるから大変ですよね。

新谷　全国のいろんな町で、様々なフェアが開催されておりますが、来年、神戸で開かれるフェアは、今までのフェアとは異なり、特定の会場というのが無くて、都市全域が会場となるということで、日本では非常にめずらしい形態ですね。

イタリアのウンブリアのスポレートの町では三十年程前から町全体を会場として、今日も芸術を中心としたフェアが開催されています。町全体が会場になれば、それこそ町の個性・性格が大切になってきますが、このスポレートの町は、催しのために改造されたり、増殖されたりということはなく、中世に造営された建造物や、そのままの町並みを利用して展開されています。アーバンリゾートフェアを控えて、二十一世紀の街づくりも目指しておられるということなので、これを機として、〝永遠の街〟神戸という、類似的なものでなく個性的な町が少しずつつくられていけばいいな、と思っております。

妹尾　先ほどからのお話の中にもございますように、特定の場所、会場を設定していないというフェアであるというだけに、もっとわかりやすいコンセプトで、例えば〝神戸においでよ〟〝神戸にいらっしゃい〟みたいなもののほうがおもしろいのではないでしょうか。「神戸に来て下さいよ、ものすごい美人がいますよ、男前だっていますよ」って。〝街角のファッション〟という感じで、元町なら元町、ハーバーランドならハーバーランドで、なにげなく歩いている人の写真を撮って、写真展をする

とか、普段着の神戸の良さが必要だと思うんです。それから、「神戸に来たら何かしてるよ」っていう雰囲気づくり。ひとりひとりの市民が呼び掛けをしていけるようなね。

嶋田　「囲い込み」ではなくて、街全体がフェアであるというのは、本当に大きな特徴ですね。今回の開催期間は六カ月間ということですが、もっと長い期間を設けてもいいかもしれません。とにかく、ちょっと見ただけでは、神戸はわからない。最低でも、二、三日は見てもらわないとこのフェアは満足できないというようなものになってほしいですね。神戸の奥の深さみたいなものを感じてもらえるフェアであってほしいと思います。ただ見るだけではなくて、街に触れる、市民の心に触れる、神戸に来て、見て、食べて、泊まって、神戸を理解してもらえるようなフェアを期待しています。

★〝なるほど神戸だな〟と感じられる催しを

長澤　神戸はブランド・シティと申しますか、独特の個性と雰囲気を持った街だと思います。明治以来外国人居留地を中心に、西欧のライフスタイル・文化に直接接触して、日本人の生活が変質していった過程の歴史が神戸の歴史です。この神戸の歴史の生き証人が異人館であり、近代洋風建築であるわけです。ですから神戸のフェアという以上は、こういう建物が主役になるフェアであるのが、最も神戸らしいんじゃないでしょうかね。ただいくら主役といってもこういった建物を見せるだけじゃつまらないですけど、なにかこういう建物を使っておもしろい、新しい文化を感じさせるようなものが神戸から生まれたなんていうことになれば最高じゃないかと思うのです。

下村　経済的な面の話というものは、まだこれからなんですけれども、イベントとしては、小さなものまで含めますと二百ぐらいはあります。楽しめるものとこれからの時代を考えていくシンポジウムのようなものを考えております。神戸は、外国の様々な文化が入ってきたところなので映画など、そんな文化との関わりも考えていかないといけないですね。

嶋田　アーキテクチュアフェアもこの時期に行なわれるようになると思うんですけれども、その中では、既に建ってしまった建築物だけを見てもらうのではなく、建築中の建物も見てもらえるようにしようという試みがあるんです。そんなことがフェアではないかと。そういう状況づくりをしていこうと。それに、神戸の建物には様々なものがありますね。それのベストテンを考えてみたり。

それから、メイン会場というのはありますけれど、街全体を会場としますから、わざわざフェアのためというわけではなくて、普段は制限されている自然な姿が見えるような形がいいと思います。

人間が見えるフェアというのが大切ですね。

どこかにわざわざ博物館をつくらなくても、倉庫を使えばいいですよね。美術館にあるものだけではなくて、個人で持っているものをフェア期間中だけ提供してもらって、見れたりするのもいいと思います。

長澤　例えば今開いている近代洋風建築や異人館あるいは倉庫なんかを利用させて貰って、モダンアートの展覧会を企画する。また、近代洋風建築の吹き抜けの所をオーケストラの練習場にして、その周囲にティールームをつくるなんてのはどうですかね。物凄いお金をかけてミュージカルをつくったり、一流のジャズミュージシャンを呼んだりするのは邪道じゃないでしょうかね。もともと神戸はそういうものが採算に乗らないんです。それは神戸の文化度が低いからではなくて、いろいろ理由はあると思いますけれども、結局はそういう専門の小屋がないからだと思います。ですからアーバンリゾートフェアをやるからといって急にそんなものを呼んでもだめですよね。むしろそんなことをするならもっと安いお金で世界の大道芸人なんかを各国から集めて呼んで旧居留地の街角やハーバーランドの海辺で、その芸を披露してもらうのがおもしろいんじゃないですか。世界的に有名な人を呼んでくるのではなく、神戸らしいもの神戸でないと実現できないものをやるのがいいんじゃないですか。

下村　街づくりというよりも〝街づかい〟ということで

すね。既存のものを活用しながら、芸術や文化の香りがする街にしていきたいですね。それが街の風格になるんだと思います。

長澤　実は「タマラ」という芝居があるのです。これは普通の劇場での芝居じゃなくて、個人の大きな家でやる芝居です。異人館や近代洋風建築なんかピッタリの場所なんです。生まれたのはカナダですが、初め劇場で公演しようと思っていたのが、劇場がとれなくて練習場に直接お客を招待したところが、それが大好評で、その後世界六カ国で上演されて、今もロスアンゼルスでは八年間連続で上演されているという新形式の芝居です。中身はタマラという有名なポーランドの女流画家をイタリアの貴族が私邸に招待して、そこで起きたいろいろな人間模様をドラマにしたものですが、俳優は十人でその人たちが直接、屋敷の中の各部屋で生活をしているように物語がすすんでいきます。ですからお客は各部屋でその俳優の隣で観劇するわけです。俳優が部屋から部屋へ走ると観客もついて走るのです。ですから普通の舞台では味わえない臨場感が味わえます。幕間には俳優達と一緒に食事をするのです。これも実におもしろい経験なんです。

　これは今、芝居の専門家達の間で大変な評判になっているもので、やれば全国的に物凄い話題になることは確実だと思いますね。「神戸に行ってタマラをみよう」とね。毎日一二〇人の観客を動員できますから六ヵ月で二万人の動員です。五木寛之先生がワルシャワでタマラを見た時のことを「ワルシャワの燕たち」の中で少し書いておられますが、先生はこの「タマラ」を見て、言葉はわからなかったが大変感動したと絶賛されておられました。私は去年からこの「タマラ」をメセナでやってみたいと思っていましたが、大丸だけでは手に負えないので諦めました。しかし神戸市がアーバンリゾートフェアでやるなら必ず採算的にも成功すると思いますね。

妹尾　ラトビア共和国の〝歌と踊りの祭典〟って言うのは、すごいんですよ。百年以上も続いているんですけれどね。合唱団が甲子園球場ぐらいの大きさのところにビッシリといるんです。日本では信じられない光景ですよね。そういう人たちがたくさんいるということなんです。

　それから街を歩いていても、ハーモニーが聴こえてきたりする。野外で合唱なんかしていると、子供たちが野に咲いている花をつんで、合唱団の人に渡しにいったりする。経済的には苦しい国ですけれども、心の豊かさというものが感じられるんです。そういう国の合唱団の人たちを呼んで、一緒に歌うとかね。にじみ出てくるような良さみたいなものがあると思います。

新谷　近頃、〝ボーダレス〟という言葉がはやっていますけれども、このような時世には東西南北の交流が一層、盛んになってくると思われます。けれども、芸術に於いては同一化されるのではなく、ますますローカリティ（地域性）・キャラクター（個性）が重要視されるようになってくるのではないでしょうか。地元神戸にはいろんなジャンルの芸術家が多勢いるので、超党派で皆んなで神戸のローカル芸術の発表ができるような催しが欲しいですね。

妹尾　神戸の芸術家の人で海外で勉強してきた人、新谷さんもそうですけれども、そういった人たちを通じて、他の国との芸術のネットワークをつなぐこともすばらしいと思います。神戸の財産、自然、街、建物、それから人を核にしてネットワークを広げていくという。

★二十一世紀の新しい都市像と暮らしを求めて

新谷　町というのは、人間がこのうつわの中で生活していくのですから、人が人間らしく暮らしていけること、人間の五感や五臓六腑に快よく感じられることが、私は大切なことだと思っています。町の発生を振り返ってみれば、人がなにげなく集い、散っていく、核になるべき場が必要で、そして波状的に構成されているようです。現在の日本はドーナツ化現象で町がどんどん増殖・増築しながら大きくなっている。そのために核となるべきところが漠然としたものになっているように思います。広場（ピアッツァ）本来の性格が希薄になっていますが、町全体が大きな広場、「ピアッツォーナ」となって人々がそこに集って来るようになればいいと思います。そし

て内外の人達に、神戸ならではの、高品位なる「神戸夢体験」に浸り満喫できれば最高ですね。

妹尾　神戸は、ハードな面では、大変充実してきていると思うんですよ。けれども、ソフトの面がまだ不十分ですね。例えば、合唱団であれば、合唱団だけで動いている。やはり、交響楽団と合唱団と一緒になって、さらにそれぞれの団体がホールを持って、その施設を根拠にして動いていかないといけないです。これはヨーロッパのスタイルですけれども。そうするとオペラが可能になってくる。ソフトとハードをうまくつないでいくということですね。それから絵画や彫刻などについての学芸員が手薄だと思います。そういった、今、欠けているものの下地をつくっていかないといけないですね。

長澤　神戸に限らず、日本ではアートにお金を出すことをうしろめたいと思っているようですね。老人や子供を楽しませる福祉だとまあまあなんとかお金を出すけれども、税金を払っている健康な人を楽しませるアートにはあまりお金を出したがらない。こういうのは興行採算に乗っけてやれば良いと思っている。しかし、実際は地域の人達の誇りになるような良いシンフォニーを育てたり、国際的に評価される絵画展をやったりするということは大変お金がかかるんです。ところが、日本じゃ出来ないそんなことを外国ではもっと貧乏な自治体がどんどん身銭をきってやってるんです。

下村　小さな溝をまたいでばかりでもいけないと思います。けれども、バランスということも必要だと思っています。ひとつのものを変えていくためには、時には大きな河を飛び越えるいきおいというものも求められますけれども。

妹尾　日本のシャンソンコンクールの本選は神戸でやるんです。各地で予選をやって。なぜ神戸かというと、シャンソンを一番初めに日本で舞台に上げたのは、宝塚なんですね。昭和二年に。そういった催しも神戸でやっていかないといけないですね。

　文化ホールの方では、このフェアの時期に、一カ月間ぐらい、諸経費は別ですけれども、神戸の団体、グループに会場を無料で開放できたらと思っているんですよ。

嶋田　美術にしても音楽にしても建築物にしても、ほんとうに良いものを市民が呼んでこれるような街、それを行政がバックアップしていくという形になればいいですね。そのためには民意が高くないといけない。

　神戸はラッキーだと思うんです。山があって海があって、こんな街は他になかなかないですからね。それらをどう生かしていくのか。それをみんなで考えていかないといけないです。神戸の街をもっともっとよくしていくのは、市民の力にかかっていると思うんです。

妹尾　〝神戸で恋をしよう〟っていう感じがいいですね。〝恋ができる街、神戸〟とか、キャッチフレーズの「神戸夢体験」ではなく「神戸愛体験」のほうが楽しい。

　そのためには、街の中にさまざまな要素が自然とからみ合って必要になってくるんですよ。

新谷　今回のフェアは、二十一世紀に向けての都市づくりということがうたわれているので、一過性のものではなくて、神戸を理解してもらうためには、神戸の歴史というか生いたちとか、神戸の他都市と違った個性的な部分、それに神戸の文化を知ってもらうことが大切だと思いますね。神戸と聞けば、すぐにその町の姿が想像される様な印象的な町づくり、しかもそれが調和と均衡がとれていればどんなにかすばらしいと思いますね。それにはまず、アーバンデザインの面で類型的なデザインではなく、神戸という町の立地条件から自然発生的に生まれてくる、個性的で印象的な町が今世紀からスタートされ、世界をアッと驚かす神戸になれば楽しいと思います。そのために私達がひとつの起爆剤になってゆければと考えています。

下村　一度に、現在の神戸の街ができあがったわけではありませんし、明治開港以来、第二次世界大戦前と後とでも、その街の様相は変わってきていると思います。

　やはり、山があって海があって港がある。そして海外からの情報もダイレクトに入ってくる街が神戸であるということを原点として、ひとつひとつを積み上げていくことが大切だとい思ますね。

田崎真珠株式会社
取締役社長　田　崎　俊　作
神戸市中央区港島中町６－３－２
ＴＥＬ（078）302－3321

オールスタイル株式会社
取締役会長　川　上　　勉
神戸市中央区港島中町６－５－１
ＴＥＬ（078）303－3311

キャンペーン「ファッション都市神戸を考える」の企画は以上各社の提供によるものです。